



ガソリン170円の公算、来週にも 価格抑制策発動基準に

経済産業省は18日、全国平均のガソリン価格が来週にも1リットルあたり170円に到達する可能性があるとの認識を示した。直近の13日発表時点は166.5円で、原油高や円安などで上昇するとみられている。170円以上になれば、ガソリンや軽油、灯油などの価格上昇を5円まで抑える対策を発動する。

自民党の総合エネルギー戦略調査会（額賀福志郎会長）で報告した。170円を超えると13年ぶりの高値水準となる。

ガソリン価格は毎週水曜日に発表している。19日の発表でも価格上昇が見込まれている。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」への警戒感が後退したことなどから原油は上昇基調にある。円安もガソリン価格の上昇要因となっている。

経産省は2021年度補正予算で燃料価格の急騰を抑える対策を用意した。水曜発表のガソリン価格が170円以上になった時点で発動を決定する。石油元売りに補助金を配り、ガソリン、軽油、灯油、重油の卸価格を上げないように要請する。

ガソリンの場合、対策がなければ小売価格が172円に上昇するような状況でも、補助金の効果によって170円の水準を維持する。値上げを抑えるのは4油種とも基準から最大5円。22年3月までの時限的措置とする。



週間原油 コスト 2円程度上昇

円建て4週連続騰60円前後に

本紙算定の円建て週間原油コスト（ドバイ・オマーン平均）は、11～17日が前週から約1円80銭、12～18日が2円10銭ほど引き上がった。上昇は年末年始をはさんで4週連続となり、2021年10月につけた直近最高値付近の60円前後に達している。円相場が上昇して円建て価格を押し下げたものの、原油相場は前週に引き続き強気に推移した（別表参照）。

原油円高も強気推移

各国で感染が広がる
新型コロナウイルスの
オミクロン株につい
て、経済活動やエネル

ギー需要への影響は限られるとの見方が原油相場を下支えしている。また欧州に天然ガスを輸出するロシアとウクライナとの間で軍事的緊張が高まっていると伝わり、エネルギー供給に関する警戒感も台頭した。

米国の在庫動向をめぐっては、EIA（米エネルギー情報局）がまとめた週間の石油在庫統計で、原油が前週

から460万バレル減少の4億1330万バレルとなり、2018年10月以来、3年3カ月ぶりの低水準に落ち込んだ。取り崩しは7週連続に伸びた。

一方ガソリンは2週続けて積み増し、790万バレル増加の2億4070万バレルとなった。また米エネルギー省は13日、1800万バレルの戦略石油備蓄（SPR）をエクソンモービルなど6社に売却すると発表。引き渡しは2～3月を予定している。

指標原油（期近、終値）は11～17日にかけて、米産WTIが「キング牧師記念日」で祝日の17日を除いて81ドル22セントから83ドル82セントに、北海プレントが83ドル72セントから86ドル48セントに上昇。北海プレントは2014年10月以来、およそ7年3カ月ぶりの高値をつけた。

期間平均の上げ幅はWTIが前回算定時から4ドル16セント（5・3%）、北海プレントが4ドル（4・9%）。4週連続で2ドルを上回る上



ポテトだけじゃない カナダの供給停滞、木材や菜種に影 その①

マクドナルドのポテトの販売制限の一因にもなったカナダ西部の気象悪化が、様々な商品の需給に影響を広がっている。昨年11月の豪雨水害や年末の寒波で生産や物流が停滞し、住宅用木材や菜種などの国際相場や対日価格を押し上げた。森林・鉱物資源や農畜産物を輸入する日本にとり調達リスクが高まっている。

カナダでは11月半ばに西部のブリティッシュコロンビア州周辺で豪雨・洪水が発生。山地の被害や鉄道の停滞、バンクーバー港近くの水害などを引き起こした。世界的に海上コンテナ物流が混乱する中での追加の打撃となり、日本マクドナルドのポテト制限の背景にもなった。日本貿易振興機構（ジェトロ）によれば、12月下旬以降は寒波による積雪・凍結も続き船便や鉄道が依然遅延している。

顕著なのが住宅用木材だ。シカゴ・マーカンタイル取引所の先物価格は現在1000ボードフィート（約2.36立方メートル）あたり1237ドルと、豪雨直前の2倍強の高値で推移している。世界的な木材高「ウッドショック」で昨年5月に1600ドル超を付けた後は下落基調だったが、主産地であるカナダ西部の豪雨で現地メーカーが出荷遅れを公表すると急反発した。

現在も港湾機能の停止や鉄道の混乱で出荷が遅れているほか、産地では地滑りの危険性から伐採作業が停止。価格の上昇がしばらく続くうえ「春以降の木材需要期に必要な量の確保が難しくなりそう」（日本の木材商社）という。

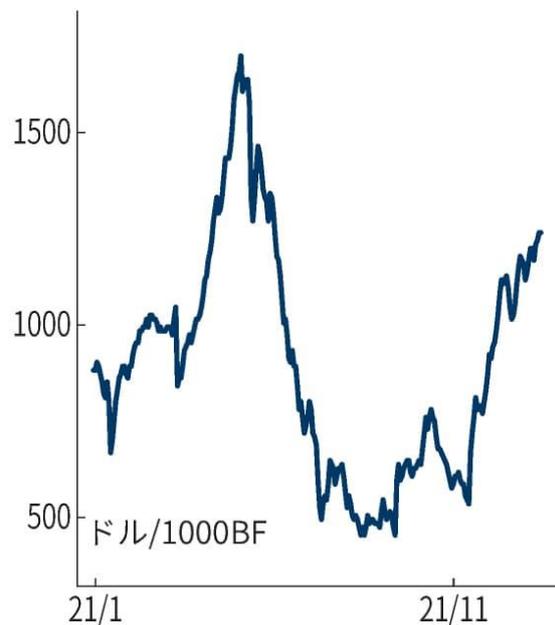
森林資源では、家庭紙の原料となるパルプも日本向け輸出に支障が出ている。指標の針葉樹さらしクラフトパルプ「N-BKP」の昨年12月積みの対日価格は1トン800ドル（運賃込み）前後。中国などの紙需要の鈍化を背景に3カ月連続で下落していたが、供給の減少で12月は下げ止まった。

現地のパルプ工場へ入ってくる貨車の数が制限され、出荷量が減った。「出荷できず工場に在庫がたまるのを避けるため生産を停止したサプライヤーもいた」（商社）

貿易統計によると、日本の輸入額に占めるカナダのシェアは21年1～11月で1.8%と高くはない。ただ、住宅用木材（製材品）ではカナダが輸入の3割弱を占める最大相手国。食用油の原料となる菜種はほぼ全量をカナダに頼るなど、森林・鉱物資源や農産物などでの依存は大きい。

菜種の輸入価格は上昇している。21年11月の価格は前年同月の2倍弱高い。インターコンチネンタル取引所のウィニペグ菜種先物は1トン1000カナダドル前後と最高値圏で推移している。Jーオイルミルズは「調達コストのさらなる上昇が見込まれる」として、22年2月納品分から菜種油を1キロ40円以上値上げする。

木材先物は再び上昇



(注) 期近物、終値



ポテトだけじゃない カナダの供給停滞、木材や菜種に影 その②

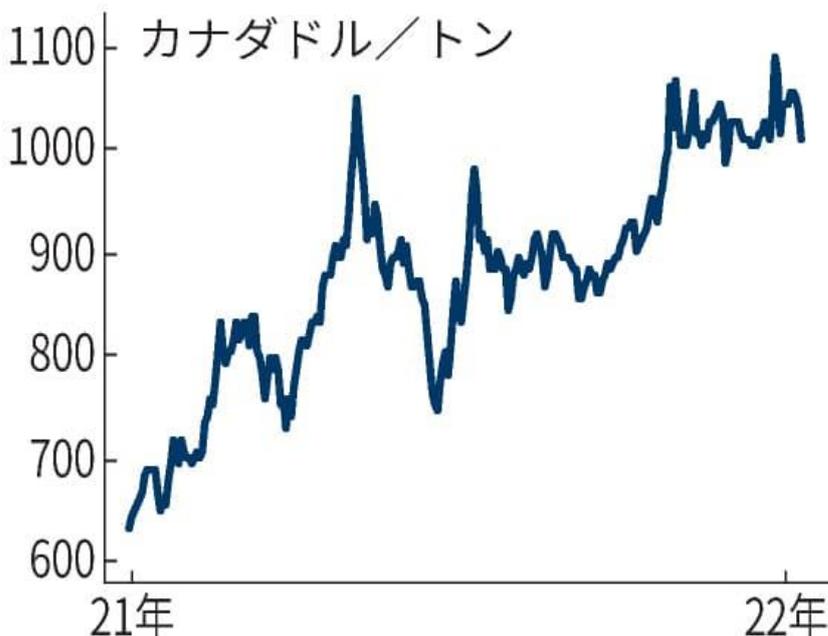
菜種以外の豆類にも影響が広がっている。輸入商社などがバンクーバー港積み出し分の出荷の予約を取れない状況だ。予約分も空コンテナの工場到着の遅れ、工場からの鉄道輸送の遅れ、出港遅れが重なり2週間～1カ月はずれ込んでいるという。

カナダ産が5割弱を占める冷蔵豚肉も輸入停滞を受け「量販店などからカナダ産の代わりに国産品の調達の見直しがあった」（食肉商社）。

ブリティッシュコロンビア州に産出地がある鉄鋼生産用の石炭（原料炭）も、北米産のスポット（随時契約）価格が1月中旬時点で1トン430ドル程度（中国行き、CFR=運賃込み）と前月比で約4割高い。世界最大の輸出国であるオーストラリアも停滞しているため原料炭の需給が世界的に引き締まり、鉄鋼の生産コストを押し上げている。

新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の感染拡大に伴う世界の物流停滞の悪化も懸念される中、カナダからの供給遅延がより深刻になれば、日本企業側で代替調達や最終製品の生産・販売停止などの対応が増えるとみられる。相場上昇が続けば、最終製品価格への波及が広がりそうだ。

菜種は最高値圏で推移



(注) ウィニペグ菜種先物価格



OPEC、22年の石油市場は堅調と予想 利上げも需要阻害せず

[ロンドン 18日 ロイター] - 石油輸出国機構（OPEC）は18日に発表した月報で、2022年世界の石油需要は力強い伸びを示すとの見通しを示した。新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大や米などの利上げ予想はあるものの、原油市場は年を通じて堅調に推移するとした。

22年の需要の伸び見通しは日量415万バレルとし、前月から据え置いた。世界の消費量が第3・四半期に日量1億バレルを突破するとの見通しも据え置いた。

月報は「上半期にはオミクロン株感染拡大の影響が出る可能性があるものの、それは一段のロックダウン（都市封鎖）の有無や入院患者数の増加が労働力不足に及ぼす影響次第だ。それでも経済成長予測は引き続き堅調だ」と指摘している。

また、22年は複数の中銀がインフレ対応のため利上げを行うとみられることに関連し、石油需要に対するリスクと見る向きもあるが、その可能性は低いとの見解を示した。米国の利上げが予想される第2・四半期は北半球ではドライビングシーズンに当たり、燃油需要が高まるとしている。

月報では「金融政策は世界経済の潜在成長モメンタムの妨げにはならず、むしろ経済の過熱を防ぎ再調整する役割を果たす。年を通じて市場は安定的に推移し続ける見込みだ」としている。

22年の石油使用量は、需要増によりパンデミック（世界的な大流行）前を上回る見通し。19年の使用量は日量1億バレル超だった。



2022年 1 月 19 日 担当 小松

原油先物7年ぶり高値、中東情勢緊迫化で供給懸念広がる

[ニューヨーク 18日 ロイター] - 米国時間の原油先物は上昇。2014年以来の高値を付けた。中東情勢の緊迫化を受け供給が滞るとの懸念が広がった。

清算値は、北海ブレント先物が1.03ドル（1.2%）高の1バレル=87.51ドル。米WTI先物が1.61ドル（1.9%）高の85.43ドル。

両先物とも14年10月以来の高値を付けた。

アラブ首長国連邦（UAE）の首都アブダビで17日、イエメンの親イラン武装組織フーシ派による攻撃があった。これを受け、UAEも参加しているサウジアラビア主導の連合軍が18日、イエメンの首都サヌアを攻撃した。